

平成 28 年 2 月 18 日

コクガンの衛星追跡の結果

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

2014 年 1 月 21 日に気仙沼市大谷海岸で、ガン類の一種であるコクガン 9 羽を捕獲し、そのうち 5 羽に衛星送信機を装着して移動を追跡しました。今回の研究では、残念ながら、繁殖地の特定には至りませんでした。コクガンの国内の春の渡りと分布が明らかとなりました。

1 コクガンの生態

天然記念物および環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているコクガンは、北極圏のツンドラで繁殖し、冬鳥として 10 月以降北海道東部の野付半島や風蓮湖などを中継したのち、函館湾や陸奥湾、南三陸沿岸などで主に越冬する。浅い海や内湾、汽水の潟湖などを利用し、非繁殖期にはアマモやアオサ類、アオノリ類などを採食する。岩手県陸前高田市から南三陸町の南三陸沿岸では、コクガンが 300～400 羽ほど越冬する。

2 研究の背景と目的

海上を広範囲に移動するコクガンは、追跡が困難であるため詳細な渡り経路や分布についてほとんどわかっていない。この研究では、衛星追跡によってコクガンの渡り経路や越冬地、中継地の分布状況を把握することを目的とした。

3 結果

コクガンは越冬地では捕獲地周辺の沿岸域や小規模な湾内で活動し、沖合では養殖筏に分布した。沿岸から 2km 以上離れた沖合や捕獲地から 6km 以上離れた沿岸を利用した個体はなかった。コクガンは 4 月上旬に渡りを開始し、南三陸沿岸から北海道東部へ直接移動する経路と岩手県や青森県沿岸、北海道内陸部を経由して北海道東部へ移動する経路が認められた(図 1)。中継地では、コクガンは国後島南部沿岸域を主として、根室半島北部沿岸域などにも分布し、越冬地と同様に沿岸域で活動した。コクガンの国内最大の中継地であり、国後島から 16km 離れた野付湾を利用した個体はなかった。北海道東部及び国後島南部沿岸域はコクガンの重要な中継地であると考えられた。コ

クガンのように長距離移動する渡り鳥を保全するためには、越冬地や中継地、繁殖地などを特定し、渡り経路全体で保全する必要がある。今後、さらに研究をすすめて、クガンの渡り経路全体を明らかにすることが求められる。

本研究は、三井物産環境基金 2011 年度復興助成（案件名：南三陸沿岸のクガンは藻場再生のシンボル！震災後のクガンの分布をモニターすることで漁場再生の手がかりを掴む）により実地した。

（原論文）

Tetsuo SHIMADA, Naoya HIJIKATA, Ken-ichi TOKITA, Kiyoshi UCHIDA, Masayuki KURECHI, Hitoshi SUGINOME, Yumi YAMADA & Hiroyoshi HIGUCHI (2016) Satellite-tracking of the spring migration and habitat use of the Brent Goose *Branta bernicla* in Japan. *Ornithological Science* 15: 37-45.

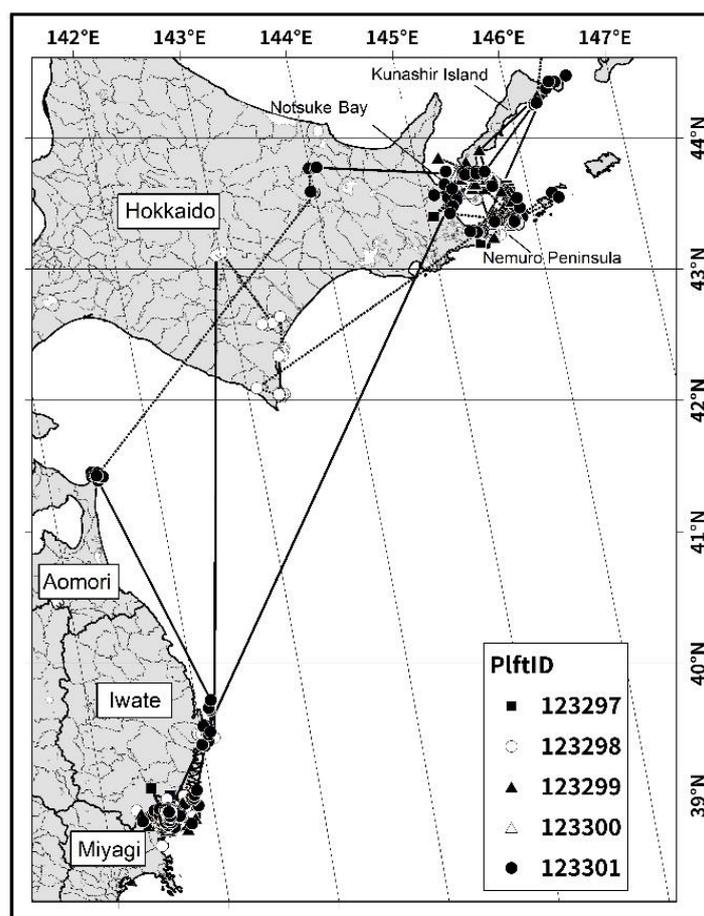


図1 国内におけるクガンの春の渡り経路。